

SHIKOKU DISCOVERY 2020

四国財務局



株式会社 いわま黒板製作所



代表取締役

角野 幸治 Sumino Koji

企業・団体情報

所在地：香川県善通寺市与北町1131

創立：昭和30年6月

資本金：1,000万円

H P：<http://www.iwamakokuban.co.jp/>

～ 黒板 & アートで 地域に新しい出会いを ～

今回は、「(株)いわま黒板製作所」をご紹介します。
当社は昭和11年創業の香川県唯一の黒板専門メーカー（現社長は5代目）。善通寺市に本社・工場を、丸亀市・岡山市・北九州市に事務所を構え、従業員18名で黒板・ホワイトボード・電子黒板の製造販売などを行っています。

「書く」だけではなく進化を続けている黒板。皆さんの黒板のイメージが変わること間違いなしです！

また、善通寺第一高校デザイン科の生徒は黒板アートで動画を制作。世界最大規模の国際広告コンテストである「ニューヨークフェスティバル2020」にも出品して、ファイナリスト（広告賞学生部門）を受賞したんですよ。

書く・描く・映す！

黒板アートを観て黒板への印象が変わりました！
ただ、黒板を取り巻く環境は変化しているとか？

黒板アートで町おこし！？

昨年秋、瀬戸内国際芸術祭2019の県内連携事業として“Zentsuji Black Board Art 2019”が開催されましたね。



“Zentsuji Black Board Art 2019”作品の一例（善通寺市HPより）

善通寺第一高校にデザイン科があり、当社も数少ない黒板専門メーカーということで、市からの提案に喜んで黒板を寄贈しました。

イベントでは高校生約30名が善通寺市をテーマに黒板アートを制作。作品を街中に展示したので、観光客の関心を肌で感じましたね。



超短焦点プロジェクターだからこの距離でも投影可能！

「書く」黒板のみならず、今では「映す」黒板の機能も求められています。投影機とセットになった黒板などの需要が年々増えていますね。

また、昨年から「ミライノガッコウカンパニー」をキックオフしました。将来の教育環境を考え、子どもたちの「ミライの幸せ」を創造するものです。たとえば、壁一面ホワイトボードシステムは学校のアクティブ・ラーニングなどの教育支援につながります。

令和二年七月十六日（木）

日直

西尾俊史
穴田一真



究極は、学校教育をサポート
ロボット開発という野望も持っています！
(当社キャラクター“ミライノくん”)

女性社員の活躍

ICT環境への対応や、将来の教育環境を考えた商品開発など、環境の変化に柔軟に対応されていますが、そこには女性社員の視点もあるそうですね。

商品企画、SNS(Twitter、Instagram)など、女性ならではの知恵を出してもらっています。幅広い世代に自宅で楽しく黒板に触れてもらいたいとの思いでスタートした「おうちのがっこう」プロジェクトや、整理・整頓・清潔を図る「3S活動」なども、女性社員がリーダーとして活躍しています。3Sでは、ものを探す時間が減りました(笑)。



善一デザイン科を卒業した生徒全員にミニ黒板を寄贈するというサプライズ！嬉しいだろうなあ〜♡

整理整頓された工場で、黒板ができるまでの工程を教えてくださいました♪



“きっかけ”を作りたい

地域に対する思いや会社として果たしていきたい役割について伺いました。

黒板屋さんになって20年以上。振り返ってみると「子どもたちの笑顔」に支えられて働いてきました。これからも、ミライの子どもたちの笑顔を守るために頑張ります。

私は「きっかけをつくること」をモットーとしています。当社の黒板が、普通寺市に関心をもってもらう「きっかけ」になれば幸いです。

今後、全国のアーティストに当社の黒板を提供し、普通寺市をテーマに黒板アート作品を制作してもらうことが検討されています。

これまでご縁がなかった人に普通寺市を知ってもらうことに繋がりますし、また作品を観たい観光客を地域に呼び込むことにも繋がる。街のあちこちに作品を飾って市内を周遊してもらい、さらに普通寺を肌で感じてもらうきっかけになればいいな、と思っています。

黒板は、“将来を担う子どもたちへの教育”だけでなく、“関係人口の増加”に繋がろうとしています。



飛沫防止ボード越しに📷

《取材後記》

○実はこの取材、半年程前に訪問予定でしたがコロナにより断念していました。今回、製品に触れたり工場を拝見したり社長の温厚なお人柄に触れたりするなかで、オンラインでは得られない面に意識が向き、コロナ収束への願いが一段と増しました。(局・統括証券検査官 西尾俊史)

○母校にゆかりのある社長、そして、御社！噂の黒板屋さん、訪問でき非常にうれしいです。昔、学校で親しんだ黒板、ホワイトボードが、ここまで進化しているとは、衝撃を受けました！この黒板を使って学び、青春を過ごしたかったなあと思えばかりでした。また社会状況の変化に迅速に対応した製品開発、経営等、学ばせていただく点も多く、社会人として良い刺激を受けました。(局・管財総括第二課 穴田一真)

掲載している情報は、令和2年7月時点のものです。
掲載している写真は、同社よりご提供いただきました。